

第1回 新しいまちづくりのランドデザイン推進本部会議

《議事概要》

- 日 時：令和3年12月24日（金） 午後4時から午後4時40分
- 場 所：ホテルプリムローズ大阪2階 鳳凰の間
- 出席者：会議資料「出席者名簿」のとおり

○ 開会

（司会）

定刻となりましたので、ただ今より「第1回新しいまちづくりのランドデザイン推進本部会議」を開会いたします。

本日は、ご多忙の中、出席を賜り、誠にありがとうございます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます事務局の大阪都市計画局技監の尾花でございます。よろしくお願いいたします。

なお、本日は、ウェブ会議システムとの併用にて開催させていただきます。

当ランドデザイン推進本部会議は、新しいまちづくりのランドデザインをとりまとめ、その推進を図るためのもので、大阪府知事、大阪市長、堺市長、市長会会長、町村長会会長をはじめ、関係部局の部局長にご出席いただいております。

それでは、開会にあたりまして、推進本部、本部長の吉村知事より、ご挨拶申し上げます。

本部長（吉村知事）

本日は「第1回 新しいまちづくりのランドデザイン推進本部会議」にご出席いただき、お忙しい中、ありがとうございます。

現在、コロナ禍にありますが、コロナ禍を乗り越えた先の大阪の成長を考えた時に、大阪におけるまちづくりは非常に重要だと思っています。大阪・関西万博、統合型リゾートのIR、テクノロジーの進展に伴う様々なスマートシティ、そういったものを、これからさらに押し進めていく必要がありますが、まちづくりをどのように、ランドデザインをつくっていくかは重要な課題であり、大阪の成長に大きく寄与するものだと思っています。2050年に向けた大阪のまちづくりの長期ビジョンを大阪全体で作り上げることが重要であると思っていますので、今回のまちづくりのランドデザインにそういったものを落とし込んでいきたいと思っています。これから、高齢化がどんどん進み、少子化も進む中で、官民が協力して、民間の皆さまの活力も活かしながらまちづくりをしていくという視点が非常に重要だと思っています。

本日の会議は、キックオフとなりますけれども、大阪全体のまちづくりのランドデザインの大きな方向性について、活発な議論と方向づけをお願いしたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

(司会)

ありがとうございます。出席者の紹介につきましては、お手元に配布の出席者名簿及び配席図をもって、代えさせていただきます。なお、大阪市の高橋副市長におかれましては、本日、別途、公務のためご欠席となっております。また、資料につきましては、次第に掲載しているものをお手元にお配りしてございます。

資料の不足等がございましたら、挙手にてお知らせください。

また、本日は、報道機関による撮影および一般傍聴が行われておりますのでご報告いたします。

それでは、議事次第に基づき、議事を進めさせていただきます。

「新しいまちづくりのグランドデザインの策定に向けて」につきましては、事務局より、資料の説明を申し上げます。

(事務局)

議題1につきまして、資料1によりご説明申し上げます。前方のスクリーンをご覧ください。なお、Web画面でも資料を共有しております。

策定に向けたグランドデザインの検討状況及びグランドデザインの大きな方向性についてご説明申し上げます。

はじめに、グランドデザインの検討状況についてです。お示しの4項目についてご説明いたします。

新しいまちづくりのグランドデザインは、大阪・関西万博のインパクトを活かし、東西二極の一極を担う副首都としてさらに成長・発展していくために、社会情勢の変化や新たな潮流を踏まえつつ、二つのグランドデザインの考え方を整理・統合して、2050年に向けた大阪全体のまちづくりの方向性を示すものとして策定するものです。グランドデザインは、官民にわたる多様な主体が共有し、民間活力を最大限引き出しながら、各種取組みを一体となって推進するための羅針盤としての役割を担うものと考えております。

策定に当たりましては、府域全体の大きな方向性を示す構想や、大阪・関西万博の決定、IR誘致、百舌鳥古市古墳群の世界遺産登録など、大阪にとってインパクトのある出来事や、新型コロナ、テクノロジーの急速な進展といった新たな潮流等を踏まえ、検討を進めております。なお、検討に際しましては、現在バージョンアップに向け議論が進められている「副首都ビジョン」や「大阪スマートシティ戦略」の事務局とも情報共有し、意見交換しながら、連携して進めてまいります。

次に、本年8月30日の副首都推進本部会議でお示しました、ご覧の8項目について、現在の検討状況を説明いたします。

1点目、「国際競争力を備えた広域経済交流圏の形成」につきましては、リニア中央新幹線のインパクトや中長期的な国土軸構想等を踏まえ、世界のゲートウェイ、スーパー・メガリージョンの西の核、西日本経済の核としてふさわしい都市、圏域について検討を進めてお

ります。

2点目につきましては、現在の「グランドデザイン・大阪」に基づき、国際交流拠点・イノベーション拠点の形成を進めるとともに、国際金融都市実現に向けた取組みやスーパーシティ構想の動向等も踏まえ、国際的な大都市に相応しい拠点形成について検討を進めます。

3点目につきましては、デジタル化の急速な進展や新型コロナを契機としまして、多様な働き方・暮らし方を支えるまちづくり等が求められていることを踏まえ、府内各地域の核となる多様な機能を備えた拠点形成や産業用地の創出、地域資源を活かした特色あるまちづくり等について検討を進めております。

4点目につきましては、鉄道の延伸や高架化、主要幹線道路の整備等の交通インフラと連携したまちづくりに加え、新しい交通システムや自動運転等の新技術の導入など、中長期的なモビリティの進展も踏まえたまちづくりの方向性についても検討を進めます。

5点目につきましては、泉北NTや河内長野市南花台等でのスマートシティの取組みの推進、モデル的取組みの横展開など、郊外住宅地や主要駅周辺等の再生について検討を進めます。

6点目につきましては、河川空間を活かしたかわまちづくりや、周辺山系の地域資源を活かした魅力あるまちづくりなど、豊かな自然環境や歴史・文化・景観資源等を活かした新たな広域連携の取組みについて検討を進めます。

7点目につきましては、2050年カーボンニュートラル実現に向けましたまちづくり分野での取組みや、激甚化・頻発化・切迫する自然災害への対応の強化について検討を進めます。

8点目につきましては、パークマネジメントによる公園・緑地の魅力向上や、御堂筋での道路空間の再編の取組みなど、先進的取組みの推進、横展開をはじめ、みどり・オープン空間の利活用、水辺や歴史資源の魅力創出などについて検討を進めます。

次に、関係者との意見交換の状況です。

グランドデザインの検討にあたりまして、学識経験者や経済団体・民間事業者、市町村との意見交換を開始しております。それぞれの方々からいただいているご意見をご紹介します。

学識経験者につきましては、有識者懇話会を設置しており、「広域的な都市構造として、関西大環状軸及び大阪湾環状軸からなる都市圏構造をめざすべき」、府域の都市構造やまちづくりについては、「都心部の再整備とともに、職・住・遊が融合し、自立した新しい郊外の姿を描くべき」や「新型コロナを契機に、仕事や消費などを生活圏で賄う人の割合が増えており、郊外ではこれらに対応したまちづくりが必要」といったご意見、まちづくりの視点として「戦後・高度経済成長期、70年代から80年代にかけて整備したエリアを、新しい発想・機能を付加して更新していく時期」といったご意見をいただいております。

次に、経済団体からは、グランドデザインの意義として、「行政が将来の姿を示すことにより、民間も安心して投資ができる」といったご意見や、「グランドデザインをどのように

実現していくのかの方法論についても議論したい」といったご意見をいただいております。

また、民間事業者からは、「活用可能な資産については、まちづくりに貢献していきたい」といったご意見や、そのためにも、「グランドデザインに位置づけがあると取組みを進めやすい」といったご意見をいただいております。

次に、市町村につきましては、府内全ての市町村と個別の意見交換を行っています。その際、各市町村の具体的なまちづくりについても意見交換を行っておりますが、本日は全般に係るご意見をご紹介します。「グランドデザインに位置づけられることにより、民間連携や投資が促進されることを期待」、「未来志向の将来像を描いてほしい」、「郊外部にも光を当てて欲しい」といったご意見、「策定後の推進体制も併せて検討してほしい」といったご意見をいただいております。また、参考ではありますが、各市町村では、下段にお示ししているようなまちづくりに取り組まれております。

続きまして、グランドデザインの大きな方向性について説明します。

はじめに、グランドデザインの大きな方向性を議論するにあたり、前提となる大阪都市圏の位置づけについてです。7月に示されました「近畿ブロックの新広域道路交通ビジョン」にもあるとおり、大阪都市圏は西日本国土軸と太平洋新国土軸上に位置しており、リニア中央新幹線の開業により、世界最大級のスーパー・メガリージョンを構成する西の都市圏となり、西日本経済の中心、世界のゲートウェイの役割を担うものと考えております。

次に、府域のまちづくりに関しては、先般の副首都推進本部会議において、「大阪市から周辺へのにじみだし」「府内において地域の核となるところ等を示していくこと」といったご意見を、有識者懇話会では、先ほどご紹介しました「自立した新しい郊外の姿を描くべき」や「仕事や消費、遊びに対応した郊外のまちづくりが必要」といったご意見をいただいております。

次に本日の論点です。先ほどお示ししました8つの検討項目や大阪都市圏の位置づけ、関係者のご意見等を踏まえ、「府域の都市構造及び拠点形成の方向性」と「大都市近郊の立地ポテンシャル等を活かした新しい郊外の姿」、この2つを設定しております。

論点1につきましては、2050年に向けてめざすべき府域の都市構造として、都心部とともに、道路・鉄道等の交通ネットワーク上を中心に、多様な都市機能を備えた拠点や、地域の個性・ポテンシャルを活かした生活圏などが形成され、連携する都市構造を形成すべきではないかと考えております。また、その拠点形成の方向性につきましては、大阪の成長・発展をけん引するという観点から、

- ・国際的な大都市に相応しい拠点として、大阪都心やベイエリアにおいて、国際競争力を強化する拠点を
- ・また、高次都市機能を備えた府域の中核を担う拠点として、業務系をはじめ、多様な都市機能の集積や広域交流を図る拠点を
- ・そして、産業を誘導・集積する拠点として、ものづくりやイノベーション創出などの先端産業等の誘導・集積を図る拠点を

これらの形成を目指すべきではないかと考えております。

論点2についてでございます。都心部や周辺府県の主要都市へのアクセス利便性が高く、さらに豊かな歴史・文化・景観資源、自然環境等を有するという大阪の郊外の特徴を踏まえ、地方都市とは異なる、大阪ならではの新しい郊外の姿を描いていくべきではないかと考えております。

本日は、以上2つの論点につきまして議論いただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上で説明を終わります。

(司会)

資料1の説明は、終わりました。それでは、ご意見やご提案などを賜りたいと存じます。

大阪府町村長会会長（田代町長）

広域連携による地域の活性化ということで、論点2で新しい郊外の姿を描くことが挙げられております。また、郊外の町村では、接している近接の府県と生活圏をともにする地域もあることから、これまでランドデザイン大阪都市圏に基づき広域連携の取組みが進められてきましたが、新しいランドデザインにおいても、市町村とともに、豊かな自然環境や歴史文化、景観資源等を活かした大阪府域にとどまらない広域連携の取組を一層進めていただきたいと思っております。

また、新しい郊外の姿という説明がありましたけれども、市町村では地域の特性を活かしたまちづくりを進めることで、活性化につなげたいと考えております。今回示されております論点の2つ目では、「郊外部に焦点をあて、新しい郊外の姿について本格的な検討が始まる。」とありますが、郊外には豊かな自然環境が享受できる恵まれた居住環境、豊かな歴史文化、景観資源が豊富にあります。このような立地特性を活かした、人・モノ・カネの流れを狭い範囲にとどめることなく、郊外にも活性化につながるよう、引き続き丁寧に町村ともに意見交換しながら検討を進めていただきたいということをお願いしまして、私からのコメントとさせていただきます。

(司会)

ありがとうございました。貴重なご意見を今後の検討に活かして参りたいと思っております。

副本部長（永藤市長）

2012年に掲げられたランドデザイン大阪は大阪市内が中心であったように感じております。将来的なことは、別としても、着実に取組みが進められておりまして、大阪市の都市魅力の向上という面では、概ね満たされつつあると考えております。次の狙いとしては、府内自治体への波及だと考えます。大阪全体が発展するためには、人口270万人の大阪市域だけ

でなく、880万人を擁する大阪府域全体で取組を進める必要があります。特に都市が持つ特色を活かして成長していくということが欠かせません。グランドデザイン大阪都市圏は、産業やインフラ面というハード面に関するところが主だったように感じています。「まちづくり」はハードもソフトも包括する便利な言葉だと思いますが、グランドデザインにどこまで、それを盛り込むかということを考えなくてはなりません。先程、田代町長もおっしゃいましたが、自然であったり、歴史文化、これらがあるからこそ、今の大阪があるわけで、これからの大阪も歴史文化、自然を活かすことで、さらに、奥深くて、魅力的な都市になると思っています。これからグランドデザインの策定を進めていく上では、府内の市町村がビジョンを共有して思いを一つにすることが必要です。その意味でも、2025年の大阪・関西万博は短期の大きな目標になるというふうに考えております。ぜひ共通認識をもって進めたいと考えていますので、このグランドデザインの策定に関しても、皆さんと議論しながら良いものにしていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

(司会)

貴重なご意見ありがとうございました。

大阪府市長会会長（野田市長）

先ず、基本的な考え方として、拠点をつくる、あるいはつくった拠点を結ぶという考え方ではなく、今回のグランドデザインでは、まさに大阪全体を俯瞰したものという理解をしています。そういったものであるとするならば、一番最初に連たんした拠点群をつくる。連たんするという大前提があることによって、大阪全体がある意味一つのものとしてデザインしていけるのではないかと思います。是非ともそういった考え方を前面に打ち出す方が、より理解ができるのではないかと思います。

二つ目には、本日がキックオフということでありますけれども、まず一つの目線には、2025年の大阪・関西万博があります。大阪の特性として、ものづくりという観点から、グランドデザインには色濃くすべきではないかと思います。具体的には、夢洲、森之宮、府市長会の会長の立場ではございますが東大阪、さらにはその先の学研都市、こういった一つの東西のものづくりの軸が大阪のグランドデザインの大きな柱になり得るものだと思います。

あと一つ、加えて申し上げれば、これを絵に描いた餅にしないために、このグランドデザインを、それぞれ自治体の基本構想、基本計画、総合計画の中で取り入れていく、加味してバージョンアップしていく、結果として、実現に一步も二歩も近づいていくと思っていますので、そういったことも考慮しながら、この作業を進めていくのが良いのかなと考えています。

(司会)

ありがとうございます。連たんというキーワードと東西のものづくりの軸など、貴重な意見を賜りました。検討に活かして参りたいと思います。

本部長（吉村知事）

大阪のまちづくりを考えたときに、やはり、大阪府と大阪市がバラバラにならないようにしていくことは基本中の基本だけれども、ここが重要だと思っています。部局として大阪都市計画局を大阪府市共同で作りました。一つの司令塔のもとで実務的に動いている。ここを中心に、大阪全体の視点をもって進めてもらいたいと思っています。その中で、大阪都心部の成長、広域的な拠点開発の効果を、これを府域全体に波及させていく必要があると思います。その時に、府域の中核になる拠点の形成が重要になってくると思っています。それぞれの部局、市町村と上手くタッグを組み、拠点形成に是非取り組んでもらいたいと思います。

それから郊外部ですけれども、他の都道府県と比較しても都心部とアクセスしやすく利便性が非常に高いことに加えて、歴史遺産、文化遺産などの素晴らしい資源があります。新しいテクノロジーをミックスさせながら、大阪全体のポテンシャルが上がっていくようなまちづくりのあり方、新たな郊外の姿を示してもらいたいと思います。是非よろしく願います。

（司会）

都心部からの波及効果や府域の拠点形成等につきまして、検討を進めたいと存じます。

副本部長（松井市長）

2012年のグランドデザイン大阪の頃は、大阪の中心部の都市魅力、力を引き上げるために、グランドデザインを策定し、取り組んできました。今回のグランドデザインでは、府域全体に魅力を広げていく、府域全体で都市としての力を上げていこうよと。東京と肩を並べられる二極を作るためには、人が集まる都市づくりをしなければならないと思います。これがグランドデザインの大きな役割だと思っています。2009年の人口推計では、2020年には850万人と推計されていました。30万人の人口が10年で減るということです。2020年の国勢調査の結果では883万人で現状維持してきた。これから人口は減るといわれているけれども、東京と比べても人口を増やしていくような魅力を作らなければならないと思っています。国勢調査の結果を見ても、大阪市が圧倒的に人口増加している。周辺では人口が減少しているという状況です。先程、知事も言っていましたけれども、大阪は狭いエリアで交通網も広がっているわけですから、大阪市のみが人が増えても今後の市民サービスを継続していく中では、大きな課題も出てくるわけです。大阪府域に広げていくことが重要なポイントだと思います。ハードとソフトの取組、こういったものを加味する中で、大阪市内が住みやすくなった、魅力が出てきたということで人が増えているわけですが、同じように中心部から広げていって府域全体に人が集まってくる都市づくりのためにも、グランドデ

ザインで拠点の整備が必要だと考えているので、市長会、町村長会の中でも議論をしていただいて、いかに住みやすいエリアづくりをしていくか、成長のためのハード整備とともにソフトの部分も43市町村が揃って議論をしていくべきだと思っています。

(司会)

ありがとうございます。880万人の堅持とともに、さらに、人が集まる都市づくりといったところに、ランドデザインの検討を加味して参りたいと思います。

次の議題2、「今後の進め方」について、資料の説明を申し上げます。

(事務局)

議題2について、資料2によりご説明いたします。前方のスクリーンをご覧ください。なお、Web画面でも資料を共有しております。

お示しの2項目についてご説明申し上げます。

はじめに、策定スケジュールです。本日の推進本部会議でのご議論を経て、引き続き、懇話会、意見交換等により議論を深め、来年の春頃には、中間とりまとめの案についてご議論をいただき、また来年夏頃には、ランドデザインの案についてご議論いただくことにより、来年末を目途に策定したいと考えております。

次に全体構成のイメージでございます。中間とりまとめに向けまして、ご覧の「1. 基本的な考え方・都市構造」、「2. まちづくりの方向性や重点的な取組み」、「3. 実現に向けた方策」といった全体構成をイメージしつつ、それぞれの項目につきまして、様々な関係者と引き続き意見交換を行いながら、検討を進めてまいります。

以上で説明を終わります。

(司会)

資料2の説明を終わりました。それでは、何かご意見等ございませんでしょうか。

副本部長（永藤市長）

先程、野田市長がおっしゃった、各自治体の基本構想や基本計画、特にこれから策定されるものに反映することはとても重要だと思っています。いくらこの場で良いアイデアが出来ても、府内でそれが実施されなければ、意味がありません。各自治体において最も大事な大方針に反映させることで、府内での取り組みが統一され、動いてくるものと思っています。これまで、例えば、聞き取りを行って、こういう場で案を出して、最終とりまとめをすることで、出てきたときには、ほぼ完成形ということも多いと思いますが、その進め方も、概ね合意ができそうなところと各自治体の想いが反映できるところを、より丁寧に聞き取りができるようなかたちで進めていってほしいと思います。

(司会)

本会議に臨むにあたっての資料等の作成につきましても、8月以降、事務局として、大阪府域全ての市町村の皆様へ、第一回目の意見交換の場を設け、協力を賜りました。ご指摘の点につきましても、引き続き、取り組んで参りたいと存じます。

本部長（吉村知事）

ロードマップとして、夏にデザイン案を確定、春に中間とりまとめというスケジュールはいいと思います。永藤市長や野田会長が言われたように、意見を組み込みながら、つくってもらいたいと思います。大事なのは、2050年という非常に長いスパンなので、まちづくりを実際にやっていくという意味では、短期・中期・長期に分けて、具体的に進めていくスケジュールに落とし込んでいくことが重要だと思います。やはり2025年の大阪・関西万博は、大阪にとっての大きな目標だし、ターゲットイヤーだと思っていますから、万博を成功させるために、そこまでに、どんなまちづくりができる、短期的な視点の実行するまちづくり、それから、2030年頃までにはこれをする、40年頃にはこれをするという具体的な短期・中期・長期で分けて、2050年の完成形を示すロードマップを作ってもらいたいと思います。

また、冒頭でも申し上げましたが、様々な民間投資を誘発するという意味では、規制緩和も重要になってくると思います。国との連携も重要になってきますので、大阪全体のまちづくりを実現させていくうえで、必要な規制緩和等について国に対しても積極的に働きかけてもらいたいし、必要であれば当然私もやっていきますので、よろしく願います。

(司会)

ありがとうございます。短中長期のロードマップ、規制緩和等について、取り組んで参りたいと思います。

副本部長（松井市長）

吉村知事からの話にもあったように、国との連携や規制緩和等の働きかけを一層進めていくため、大阪市において都市再生緊急整備地域の指定等で、国の立場から大阪のまちづくりに様々な尽力をいただいた和泉洋人氏、現在は一般財団法人 日本建築センター顧問ですが、この方を、大阪府、大阪市の特別顧問としてご就任をいただきたいと思います。まずは、今回のグランドデザインの策定にあたって、規制緩和などをはじめとした民間活力を最大限に活かすための方策について、様々なアドバイスをいただきながら、国としっかり連携をして、進めてもらいたいと考えているので、よろしく願います。

(司会)

ありがとうございます。国との連携を緊密に進め参りたいと思います。

それでは、その他のご意見がございませんようでしたら、次回に向けた取組みにつきまして、お知らせを申し上げたいと思います。今後、次回の推進本部会議に向けまして、引き続き、市町村や学識経験者、経済団体等との意見交換を進めながら、議論を深め、会議では、グランドデザインの間とりまとめ（案）について、次回ご議論いただけるよう検討を進めてまいります。

以上をもちまして、第1回新しいまちづくりのグランドデザイン推進本部会議を閉会いたします。皆様、ありがとうございました。